

別添1

令和6年度第2回東北森林管理局事業評価技術検討会審議概要

1 開催日時 令和7年2月21日(金) 10時00分～11時45分

2 開催場所 東北森林管理局 4階第3会議室

3 出席者

(1)事業評価技術検討会

会長 高田 克彦

委員 山本 信次

委員 山中 高史

(2)当局出席者(検討委員会委員等)

森林整備部長

計画保全部長

企画調整課長

計 画 課 長

治 山 課 長

森林整備課長

資源活用課長

森林整備課課長補佐(説明員)

企画調整課監査官(事務局)

企画調整課監査係長(〃)

4 評価の対象

(1)事前評価(森林環境保全整備事業)

・三八上北森林計画区(三八上北森林管理署)

・大槌・気仙川森林計画区(三陸中部森林管理署)

・雄物川森林計画区(秋田森林管理署、秋田森林管理署湯沢支署)

・最上村山森林計画区(山形森林管理署、山形森林管理署最上支署)

5 事業評価技術検討会の意見

(1)事前評価(森林環境保全整備事業)

「効率的な森林整備と路網整備を適切に進めることにより、森林の有する公益的機能の発揮による生活環境の向上と木材生産等を通じた地域振興への寄与が期待されることから、事業実施の必要性が認められる。」

6 質疑応答

委員:下刈の省力化率の推移などの説明があったが、次の計画についてはどの段階の数値を見て今後の取り組んでいく目標としているのか。

当局:現段階では目標値を定めてはいないが、初期成長に優れた苗木などが出てきており、林地の状況を確認しながら取り扱いを検討したいと考えている。

委員:省力化率というのは便益集計に見込まれているのか。

当局:現状の平均値で見込んでいる。

委員:省力化等の目標やルールは様々あるだろうが、現場が思考停止してしまっはいけない。林業事業体も減少しているため、林野庁としても事業体の育成を意識した取組も必要と考える。

委員:森林病虫害について国有林での被害の有無が説明されていたが、マツクイムシ被害の発生は温量指数で決まるため、気温が上がってくると国有林でも出てくるものと思われる。国有林での被害の有無ではなく市町村で発生しているかどうかで個表等に記載しても良いのでは。

当局:そのようにする。

委員:この評価の中でチェックリストを使用したやり方は、いつから始まったものか。森林整備事業の内容があまり変わらない状況もある中で、評価もずっと変わっていないのでは。評価の推移のようなものがあれば次回以降で結構なので提示できるか検討してほしい。

当局:検討させていただく。

委員:チェックリストの優先配慮事項で作業体系の整備ということで高性能林業機械について説明があったが、今回の判定はそのとおりで良いと思うものの、今後どんどん高性能化が進んだ場合、定義を機械の進歩と共に変えていく必要がある。また、システムとして動いているかどうか。機械を持っていてもうまく機能していないのでは良くないと思われる。良いシステムの定義が必要と考える。

委員:チェックリストの優先配慮事項の内容が、時代に合っていないものがあるのではないか。施業も間伐中心から主伐再造林が増えてもいるため、このままのチェックリストでの議論は難しいかと思われるため、修正等について検討願いたい。

当局:確かにチェックリストの内容については、現状とずれているものもあるため、御指摘を踏まえてこれまでも林野庁へ修正要望等しているが、引き続き要望等していきたい。